

天国の母へ「約束」守ったよ

第105回全国高校野球選手権長野大会の1、2回戦が始まった9日、諏訪市のしんきん諏訪湖スタジアムで松商学園高(松本市)との1回戦に臨んだ下諏訪向陽高(諏訪郡下諏訪町)の3年生山崎大翔さん(17)は昨年9月末、母親をがんで亡くした。悲しみに暮れ、学校や部活動を休む時期もあったが、母親の、野球を続けてほしいとの言葉を胸に練習に励んできた。試合には敗れたが、高校野球部の監督という夢の実現に向け、前を向いている。

【20面参照】

下諏訪向陽 山崎主将



高校
野球
長野大会

母親の思いも胸に、最後までではつらつとしたプレーを見せた
下諏訪向陽高の山崎大翔さん(17)9日、諏訪市

大翔さんは小学4年の時、塩尻市のリトルリーグで野球を始めた。母親の令子さん(享年53)は、弁当作りや試合時の送迎、練習試合の応援などで野球に打ち込む大翔さんを支えた。しかし、大翔さんが中学3年生の頃、大腸がんと発症。その後肝臓に転移した。体調がすぐれない日がある中、令子さんは半日だけでも練習試合や大会に駆けつけ、大翔さんを見守り続けた。大翔さんは昨年夏の大会後に主将になった。しかし、チームをつまくまどめられず、練習試合でも勝てない日が続いた。「自分のせいで勝てないんじゃないか」と悩み、部を辞めたいと思う時もあった。胸の内を話すと令子さんはこう答えた。「(責任ある立場の)キャプテンはそう簡単に辞められるもんじゃないよ」。この言葉に主将として

の自覚を強めた大翔さんはず一度頑張ろうと思った。その約1カ月後、令子さんが亡くなった。母を失った喪失感で学校や部活動を1カ月半ほど休んだが、それでも再びグラウンドに戻って来られたのは、気にかけてくれた仲間との存在や、令子さんが残した「最後まで野球を続けてほしい」という言葉から。夢に現れた令子さんに「しっかりとしなさい」と言われたことも支えになったという。

練習では、自身が中心になってメニューを考え、仲間を引っ張った。この日の試合では5点を追う6回、1死満塁で打席に向かう後輩に「俺に回してくれ」と鼓舞する場面があった。この後輩がヒットを放ち、強豪を相手に初得点を奪った。

スタンドから声援を送った父昌義さん(56)のリユックの中には令子さんの遺影が。昌義さんは「本人が楽しんでやってくれば(令子さんも)喜んでいいると思う。あと1年

長く生きてくれていたら」と涙を浮かべた。

試合は2-6で敗戦。大翔さんは「(令子さんには)これまで支えてくれた感謝の気持ちと、最後まで野球をやりきったよ」と伝えたい」と目を赤くして話した。

(川上)